

観音さまと船乗り（東一の井手）

一の井手の興元寺の東の山手に、観音びらというところがある。
むかしむかし、観音びらに観音さまがおまつりしてあったそうな。観音堂からは、
裕島や周防灘までもようみわたせた。
豊後水道から周防灘に入ってくる船は、東に上るにも、西に下るにも、徳山の港は
ちようどええ港じゃった。

それで、港に入る船は、観音堂を目印にしちよったそうな。
船乗りたちは、港が近づくと、声を出してよろこび、元氣にかいをこいだ。
じゃが、船かじをにぎるもんが、少しでも心に迷いがあつたり、おかしな気持をも

つちよると、たちまちにしてかじの方向
をあやまって、潮に流されたそうな。

「これは観音さまが、高いところからじ
つと見とんなさるからじゃ」

「わしらの心はお見とおしじや。それに
してもあらたかすぎる」

船乗りたちは、一の井手の観音さまを
ひどうおそれちよった。

「観音さまが、高いところにおいでるか
ら、あらたかすぎるんじや。もう少し低
いところに移つてもらえんじやろうかの
う」

船乗りたちがあまりおそれるので、と



うとう観音堂を下に移したそうな。

それが、いまの東一の井手の福田寺じゃ。